

回帰する人生

アンジェロ・M・イアシエロ
A I A A 国際部事業開発部長
Angelo M. Iasiello, II
Business Development, International, AIAA



私の職歴の上で現在私が航空宇宙分野で働いているのは運命だと言ってもいいかもしれません。正直に言って、私の人生の旅が私を AIAA に導いたということは確かだと思います。私は小さい時から、プラモデルの飛行機とかロケットを作るのがすごく好きでした。実際、私はもっと作るために、私のベッドルームにスペースを確保する必要からその多くを人にあげなければならないほどプラモデルを作りました。

このような甘く懐かしい記憶は人類初の月面到達のぼんやりした粒子の粗い映像に重なります。私は、父母とこの歴史的なイベントを白黒テレビで見たのを覚えています。しかし、このイベントの意義とかそれを可能にした科学技術・工学の最高達成点をずっと後になるまで完全には理解できませんでした。

不確実な世界で、1つだけ私には確信があります。つまり、現在の私は、過去から今日まで私を導いた人生経験の所産であるということです。私の世界観は私の独特の生い立ちによって形づくられました。それは、イタリア人の父と米国人の母の長男であるという双方の利点を持っています。私は、2つの文化、2つの国籍、そしてイタリアと米国に住んでいたという幸運を持っていました。私は、両方の世界の最も良いと感じるものを合わせ、両文化から大切な人生的教訓を得るとともに、私の人生という壮大な旅にユニークな影響を与えました。

その後、私は、ホリー・クロス大学 (The College of The Holly Cross) の国際関係及び現代外国語学科と教養学科の2学科の卒業生となりました。この頃、私は外交に非常に興味を持っており、1987年に卒業してから、米務省で外交官としての職歴を積むためワシントン DC に来ました。

外交官として5年間働いた後、1992年の国際貿易ロビイストになるという特別な機会を持ち、ワシントン DC にあるエンジニアリング会社アメリカ協会 (the American Council of Engineering Companies) の国際部長を務めました。この動きの速い環境では、私は立法過程に興味を持ち、議会を通して外国への援助法を制定するのを手伝うことができました。そして、1998年まで米国が融資するインフラ・プロジェクトの発展途上国における支援をするために連邦議会議員、米エンジニアリング会社および他の関連パートナーと働きました。

AIAA に加わる前の期間に、型にはまらない創造的なアプローチを行って問題に迫り、問題を解決するという能力を向上させるために、仕事上の経験とアカデミックな理論をバランスさせることが重要と考え、1992年に、私はMPA (Masters in Public Administration) を取得し、そして、1997年に国際貿易と金融で修士の学位を取得しました。以上が、私が1998年にAIAAの正職員となった公式的な教育、専門及び個人的なバックグラウンドです。

1998年に、私の大切な幼い頃の興味に帰って私自身を再発見し、航空宇宙に対する魅惑を再び追い続け始めました。不可能に見えることを可能にするような仕事をする人々と知り合い、一緒に仕事をするのは、驚くほどさわやかな経験であり、いくらか謙虚な気持ちになる経験でもありました。私は、私が初めて飛行機やロケットのプラモデルを作り始めたとき私が持ったのと同じくらい、しかし、全く異なる理由から今日、これらの人々に畏敬の念をもっています。

航空宇宙のエンジニアは、印象的な人々です。私自身は航空宇宙のエンジニアではありませんが、他の国で組織化された技術的なコミュニティとの対話、専門的責任の共有及び支援を通して彼らの利益と専門を向上させることに少しでも貢献することができれば幸いです。AIAAでの私の仕事はこのことに集中しています。つまり、知識が共有され必要に応じて広めるために、プログラムやシンポジウムとか他の手段の作成を通して、産学官の結びつきを再開拓して、発見の最先端での仕事を維持し続けることが私の望みです。

航空宇宙エンジニアは不可能と見える夢を日常的現実に変える人々です。そして、彼らはそれをとても単純に見えるように、つまり、とてもたやすいようにします。一般大衆は頻繁にシャトルを打ち上げることは当然のことと知っていることでしょう。私も最近まで頻繁に打ち上げるのは当然だと思っていました。しかし、事故があれば命が奪われるという宇宙飛行士が直面する危険性を認識し、我々は謙虚な気持ちになり、すべてのミッションが如何に技術的に複雑で高度かを理解しました。

燃料供給のために停止をすることなく13,000マイルを飛行できる飛行機についても同様のことが言えると思います。また、彗星の構造探査のため流星とぶつかるように宇宙船を操縦する際の失敗の確率をどのくらいと考えているのでしょうか。火星への2つの「ローバー」(それぞれは、設計寿命より長く働きましたが)の着陸、あるいは、土星の輪または木星の衛星の構成の探査、無重力での科学実験を支援する有人の国際宇宙ステーションの開発についてはどうでしょうか。さらに、星の誕生または消滅を捕えることができる望遠鏡についてどうでしょうか。

私達は太陽系の発見という果てしない道を進んで行くので、ちょうど私がかつてそうであったような子供が、大人によって教育的で専門的な進路が与えられ、それが実現された場合、その結果を誇りに思えるかどうか思いを巡らすのに十分な時間があると思わずにいられません。その大人はその時代になされた何かの偉業に直接的には関係しないかもしれませんが、子供が想像する以上に関係しているかもしれません。不可能なことを可能にしている英雄的人々であることは確かであるからです。彼らは我々

の世界を変えています。それ故、子供も大人もその恩恵をずっと受けていきます。

このことで私は皆様に敬意を表する次第です。皆様つまり航空宇宙エンジニアは、まだ子供だった頃を思い出させるだけで、大人になった子供の想像力を駆り立たせています。今日まで私の部屋の棚を占めているプラモデルの飛行機やロケットより大きな贈り物があるのでしょうか、どんな多くの証明が必要でしょうか？

(訳者より：本記事の原文は単純な和訳が難しい文章であるため意訳されている。詳しくは原文(英文)を参照されたい。編集特別顧問 飯田尚志)